

2025 年度 第 1 回秋田市中心市街地活性化協議会開催結果

2025 年 6 月 3 日（火）14 時 00 分より、秋田商工会議所ホール 80 において、秋田市中心市街地活性化協議会を開催しましたので、その内容について公表します。

≪議事内容≫

○場 所 秋田商工会議所 7 階 ホール 80

○出 席 者 委員：19 名 オブザーバー：17 名 計 36 名

○協 議 （１）2024 年度事業報告（案）・収支決算（案）について
（監査報告）
（２）任期満了に伴う役員改選について
（３）令和 6 年度 秋田市中心市街地活性化プランの定期フォローアップに関する報告について
（４）その他

○報 告 （１）秋田市中心市街地活性化プランに関する事業等の進捗
① あきた芸術劇場ミルハス 3 周年記念事業・主な公演について
② 佐竹史料館リニューアルオープン（予定）について
（２）秋田市中心市街地活性化協議会事業の進捗
① ウォーカブルなまちづくり先進地視察の実施について
② 広小路バザールの開催概要について
③ 2025 千秋蓮まつりの開催概要について

○情報提供 （１）東北経済産業局からの施策紹介
（２）中小機構からのまちづくり支援紹介

≪発言内容≫

【辻会長の開会挨拶】

- ・ 5 月 24 日・25 日の 2 日間、「これが秋田だ！食と芸能大祭典」を開催し、生憎の雨模様となったが、9 万 8 千人に会場いただいた。委員の皆さまには、開催に際してご支援とご協力を賜り、この場を借りてお礼申しあげる。
- ・ 今年度、あきた芸術劇場ミルハスが開館 3 周年を迎えるほか、10 月には佐竹史料館がリニューアルオープンする。著名人の公演などが予定されており、後ほどご報告いただく。中心市街地の更なる活性化に繋がっていくよう期待する。
- ・ 当協議会では、ウォーカブルなまちづくりの検討に向けて、秋田市関係部局等とワーキングに取り組む予定としている。今月下旬には、福井県福井市への先進地視察を実施する。中心市街

地の公園や道路などの公共空間を活用した人々が集い、憩うような空間づくりに向け、積極的に進めていきたい。

- ・本日は、「2024 度事業報告・収支決算」および「任期満了に伴う役員改選」、「中心市街地活性化プランの定期フォローアップ」についてご協議いただく。皆さまから忌憚のない意見をお願いしたい。

【協 議】

(1) 2024 年度事業報告（案）・収支決算（案）について

事務局が、協議会および芸術文化ゾーン活用研究会の開催やアートなまち歩き発信事業等の実施など、2024 年度の事業報告（案）を説明した後、収支決算（案）について説明した。

山下監事が監査報告を行い、原案どおり承認された。

(2) 任期満了に伴う役員改選（案）について

秋田商工会議所の辻良之会頭が会長再任となった。

副会長は、会長の指名により、公益財団法人秋田市総合振興公社の根田隆夫理事長、監事は秋田市広小路商店街振興組合佐々木清理事長と秋田市都市整備部山下浩司部長の2名が再任された。

(3) 令和 6 年度 秋田市中心市街地活性化プランの定期フォローアップに関する報告について

秋田市都市整備部の菊地副理事兼都市総務課長が以下のとおり説明し、原案どおり承認された。

- ・令和5年4月から10年3月までの5年間を計画期間とする本プランは、取組の進捗や目標の達成状況を毎年フォローアップし、その内容を公表している。本日は、令和6年度の取組の評価と、目標指標の最新値を報告し、協議会からのご意見をいただきたく協議するもの。
- ・令和6年度終了時点の中心市街地の概況について、令和6年度は、千秋美術館のリニューアルオープンや千秋公園大手門の堀遊歩道などのハード整備が進み、遊歩道では、ハスの見頃である7月から8月にかけて、日中だけでなく、夜間のライトアップを楽しむ人々の姿が多く見られた。ソフト事業では、令和3年度から実施してきた広小路バザールの来場者数が11万7千人と過去最高だったほか、この開催を契機として、周辺商店街や民間企業から次年度以降の新たなイベントの提案があるなど、さらなる連携に繋がってきている。また、文化創造プロジェクトなどを通じて、市民の多様な活動が生まれ、まちに広がるなど、官民連携による取組の成果が着実に現れてきている。中心市街地の歩行者・自転車通行量は、全体では微減だったものの、遊歩道の供用開始などにより、中土橋の通行量は大幅に増加し、中心市街地全体への分散傾向も見られたことから、今後もさらなる回遊性の向上に向けた取組を強化していく必要がある。また、インバウンド観光においても、クルーズ船の寄港が増加し、多くの外国人観光客が中心市街地を訪れており、引き続き体験型コンテンツの企画などによる、まちの魅力向上と誘客の促進を進めていく必要があると考えている。民間主体の取組では、アトリオン隣に13階建のホテルがオープンし、中通地区ではマンション2棟が完成をしている。このほか、現在、千秋久保田町にマンション1棟が建設中であるほか、今後、中通四丁目にホテル1棟の建設が予定されるなど、秋田駅前周辺の開発が進められている。こうした動きを背景に、駅前商業地の公示地価は昨年に引き続き上昇するなど、中心市街地のにぎわい創出に効果が現れてきてお

り、今後もハード事業とソフト事業のさらなる連携を図り、官民一体で中心市街地の魅力向上に努め、活性化に取り組んでいく必要があると考えている。

- 居住人口について、中心市街地の人口は 4,490 人と、令和5年度と比較し 103 人増加をしており、特に、マンションの入居開始があった中通三丁目で大きく増加をしている。地価データについて、概況で申し上げたとおり、商業地域の多くの地価は上昇を続けている。
- 本プランでは、5つの目標に向けた指標をそれぞれ設定している。「歩行者・自転車通行量」は、令和9年度に 33,300 人の達成を目標としているが、最新値の令和6年度は 29,341 人となり、前年値と比べて 1,023 人減少しているが、令和6年度は秋田駅周辺に集中していた通行量が、遊歩道の供用開始により、中心市街地全体に分散しており、回遊性の向上に繋がったものと考えている。今後は、千秋公園東側ポケットパークの階段デッキの整備完了や、佐竹史料館のリニューアルオープンに加え、居心地がよく歩きたくなる「ウォーカブルなまちづくり」を目指した取組などを進めていくことにより、目標達成は可能と考えている。「芸術文化施設利用者数」は、ミルハス、県立美術館、千秋美術館、佐竹史料館の4施設を対象としており、令和9年度に1日あたり 2,300 人を目標としている。令和6年度は休館中の佐竹史料館を除く利用者数となっている。前年度は1日あたり 1,910 人であったのに対し、6年度は 2,052 人となり、142 人増加をしている。10月には佐竹史料館がリニューアルオープンすることから、さらなる利用者数の増加が見込まれ、現時点において目標達成は可能と考えている。「市内総人口のうち中心市街地人口が占める割合」は、中心市街地の人口割合は、令和9年度に 1.9% まで上昇させることを目標としており、6年度は前年度に続き 1.5% であった。概況で説明したとおり、民間マンションの完成・入居開始などにより、中心市街地の人口は増加しており、今後、入居開始予定あるいは現在建設中のマンションもあることから、現時点において目標達成は可能と見込んでいる。「商業集積促進関連制度利用件数」は、中心市街地空き店舗対策事業など、本市の創業・起業支援制度の利用件数を計画期間の累計で評価するものであり、目標値は5か年で 181 件と設定している。比較的賃料の安い中心市街地外への出店が増加したことなどにより、6年度実績は 27 件にとどまり、現時点での累計は、目標達成ペースをやや下回る 63 件となっているが、今後も中心市街地へ出店するメリットや、その後のフォローアップを含め、制度の周知を図っていくことにより、目標達成は可能と見込んでいる。「市民活動等施設利用件数」は、にぎわい交流館やアルヴェ、文化創造館の貸し会議室等の利用件数であり、令和9年度の目標値は年間 19,700 件としている。6年度の利用件数は 17,971 件であり、前年度から 819 件減少をしているが、利用者の数は伸びており、文化創造館を中心に市民の多様な活動が生まれている。今後も各施設において市民活動を支援する事業を実施していくことにより、目標達成は可能と見込んでいる。
- 今後のスケジュールについて、本報告書（案）に協議会の意見を加えたのち、7月上旬に本市ホームページ上で公表を予定している。

<意見・質問>

秋田大学の篠原委員が以下のとおり発言した。

- 現在、中心市街地の居住人口と歩行者・自転車通行量のデータとなっているが、昼間人口のデータもあるかと思う。昼間人口だけでは流動人口は抑えられない。本報告に対して異存はないが、報告を作成するうえで余裕があれば、昼間人口を含めた方が良いと思う。中心市街地の役

割として、そこに居住する人へのサービスのほかに、外から来街する人や地域内で働く人等に対してのサービスを向上させることが都市機能の強化に繋がる。そのために通行量調査を行っているのであれば、通勤・通学で中心市街地に来街する人を含める必要がある。全体を含めた通行量調査を行い目標値と比較して減少していれば、中心市街地の中心性が低下していることになるかと思う。

- 中心市街地で商売をしている方にとっては、交流人口だけではなく年齢・性別構成が気になるところ。中学・高校生が中心市街地でのサービス等に物足りなさを感じているのであれば、その点を改善する必要がある。サービスを充実させることで、流動人口や交流人口にも数値として現れる。

秋田市都市総務課の菊地課長が以下のとおり発言した。

- 昼間人口については昨年度も指摘されていたと認識している。昼間人口の統計的データは5年に1度行っている国勢調査で把握しているが、今回のように中心市街地というエリアを限定したデータではないため、特定することは難しいと捉えている。
- 全体的な傾向として秋田市の昼間人口は夜間人口より103.7%、1万人程度上回っている現状にある。特性を踏まえると、中心市街地に置き換えて考えることはできるのではないかと認識している。また、年齢構成についても、年少人口が少なく高齢人口が多いということが全市的な傾向ではあるが、中心市街地も同様だと把握している。そのような中で、指摘があった若年層がまちづくりにどのようにして関わっていくのかということも大事な視点だと考えているため、秋田市総合計画の策定の際に、若年層の声も取り入れていく方針になっている。

社会長が以下の通り発言した。

- 今年ミルハスが開館3周年を迎え、佐竹史料館のリニューアルオープンや遊歩道・ポケットパークの整備完了など、千秋公園・久保田城への注目度は高まっていくと考えられる。
- 千秋公園の歴史に関して広く知ってもらえるような仕掛けができないものか。中心市街地のシンボルとして捉えているので、今後の取組みを検討いただきたい。

久保田城址歴史案内ボランティアの会の小国会長が以下の通り発言した。

- マンション・ホテルが新しく建設され、佐竹史料館がリニューアルとなれば、中心市街地の再整備が一区切りとなる。案内人として案内を行っている時、気になっていることが一つある。それは、施設を示す案内板（サイン）。ミルハスが完成した際にも張替えて対応しており、見栄えがあまり良くないので、案内板の再整備を検討いただきたい。また、設置場所によって市の所管する課が異なることについては、庁内で横断的に情報を共有して対応いただきたい。

NPO 法人アーツセンター秋田の三富事務局長が以下の通り発言をした。

- 調査報告の中で、市民がつくるまち・市民活動等施設利用件数で819件減少しているものの、利用率は145%増と伸びており反比例する結果に驚いている。仮説だが、これまで活動していた団体が高齢化により、活動を停止したりしてしまっていることが考えられる。そのような団体からの今後の継続方法の相談を持ち掛けられるケースもある。本調査の具体的な内容をご教示いただければ、当館としてもアプローチできるのではないかと考える。

秋田市都市総務課の菊地課長が以下のとおり発言した。

- ・指摘の通り、市文化創造館は令和 5 年度から令和 6 年度にかけて利用件数が増加している。利用者数との乖離については、利用形態の変化によって生じたものと分析している。

【報 告】

（１）秋田市中心市街地活性化プランに関する事業等の進捗

① あきた芸術劇場ミルハス 3 周年記念事業・主な公演について

あきた芸術劇場ミルハスの進藤館長が以下のとおり報告した。

- ・ミルハスは令和 4 年 9 月のグランドオープンから今年で 3 周年を迎える。
- ・主催事業は 4 事業。1 つ目は、GW の 5 月 6 日にミルハスフリー・オープン・デーとして、周辺施設と連携して施設開放イベントを開催した。県内外 60 店舗のマルシェ、一般を対象にした舞台機構の見学会、中ホールではオープンステージ、小ホールではピアノのききくらべと映画上映、創作室ではこどものあそびばを、一括してオープンデーとして昨年度より実施している。
無料で開催ということもあり 4,038 人が来場し、来場者からは好評を得ている。
- ・2 つ目は、9 月 14 日に劇団わらび座と協力してミュージカル「秋田は何もない」の特別公演を開催予定。わらび座メンバーによる生演奏も予定。
- ・東急文化村と当館、北上さくらホール（岩手）、荘銀タクト鶴岡（山形）、八戸公会堂（青森）が共同で企画し、「遠野物語」をテーマにした新作バレエと演奏を来年 1 月 12 日に公演。
- ・東京芸術劇場が製作予定の新作舞台「飛び立つ前に」。著名な俳優が出演予定で、橋爪功・若村真由美・岡本圭人・前田敦子の 4 人を中心とした内容。若村真由美と岡本圭人が以前、中ホールで朗読劇を行った際に、音の響きが良かったと感想を得た経緯があり、是非とオファーしたところ来年 1 月 24 日と 25 日での舞台が決まった。
- ・ミルハス主催事業は、7 月 13 日広小路バザールとの連携事業として子どもわなげチャレンジを予定。当日は全館予約済みのためロビーで実施。また、千秋蓮まつり期間中はロータスフェスティバルと連携して、ライトアップライトに使用するランタンのイラスト募集にも協力する。

② 佐竹史料館のリニューアルオープンについて

秋田市立佐竹史料館の伊藤事務長が以下のとおり報告した。

- ・令和 5 年度に着工して今年度開館予定。
- ・場所は旧施設があった場所での建設となり、延床面積は 2,607 ㎡と従来施設規模の約 5 倍。
- ・講義室を 2 階に新設。また、千秋公園二の丸広場方向を展望できる屋上テラスも新設。
- ・開館予定は 10 月下旬としており、建設工事は 8 月末までの予定。

<意見・質問>

秋田大学の篠原委員が以下のとおり発言した。

- ・入館料は。

秋田市立佐竹史料館の伊藤事務長が以下のとおり発言した。

- ・一般が500円、20名以上の団体利用は400円、年間パスポートは1,300円と設定。

(2) 秋田市中心市街地活性化協議会事業の進捗

① ウォークラブルなまちづくり先進地視察の実施について

事務局が以下のとおり報告した。

- ・既に、委員およびオブザーバーに案内している秋田市中心市街地におけるウォークラブルなまちづくりを推進するにあたり、先進的な取組事例を学ぶ機会として福井県福井市への視察訪問を実施するもので、日時は6月25日(水)から26日(木)の2日間、内容は、1日目に福井市都市整備部と福井商工会議所との意見交換、2日目に福井市と指定管理者より案内いただき、ほこみち指定道路2箇所の視察を予定している。
- ・視察箇所は、2枚目チラシ裏面で県庁線と中央大通りで、ともに福井駅から徒歩5～8分圏内に位置している。昨年3月から歩行者利便増進道路制度「ほこみち」に指定され、「みち」から「まち」を変えていくを合言葉に、歩道上でキッチンカーによるランチの提供などを実施している。
- ・参加費は無料、現地までの交通手段と宿泊先の手配・費用は各自での負担。

② 広小路バザールの開催概要について

事務局が以下のとおり報告した。

- ・今年度は、7月13日(日)の1回開催。会場は広小路・中土橋、来場見込は6万人、現在の出店申込状況は82コマ。
- ・当日は、エリアなかいちでAKTイベントが予定されているので、周辺施設や商店街と連携を図りながら賑わい創出に努めていく。

③ 2025 千秋蓮まつりの開催概要について

事務局が以下のとおり報告した。

- ・7月11日から8月31日の52日間、秋田観光コンベンション協会の千秋公園蓮の花ライトアップに合わせて実施。
- ・秋田市竿燈会直前合同練習会は、7月25日(金)と26日(土)の2日間、エリアなかいちにぎわい広場で実施。今年も特別観覧席を設置して、ふれあい竿燈やあきた観光アンバサダーとの記念撮影を予定している。また、当日、日本医学教育学会で約2,000名が来県予定とのことであり、誘客に向けて企画・検討を進めていく。
- ・ロータスカフェは、東側ポケットパークにおいて、千秋蓮まつり期間中の17時から21時、今年は出店希望者がいる場合は平日も開催。秋田市文化創造館と連携を図りながら、集客と回遊性の向上へと繋げていく。
- ・ナイトマーケットは、8月16日(土)、エリアなかいちにぎわい広場で行われる「なかいち夏祭り」への出店者を募り開催。
- ・蓮の花キャンドルナイトは、8月16日・17日の2日間、お堀の遊歩道に光の演出を施す企画を検討。

- ・蓮の花フォトコンテストは、今年も開催することとし、同期間中に中心市街地で開催されるイベントと連携を図りながら、県外客にターゲットを絞り、インフルエンサーの活用のほか、秋田市観光クチコミ大使へのPRや東北まつりネットワークなどへの情報掲載、首都圏へのポスター掲示等で情報発信を強化していく。

【情報提供】

(1) 東北経済産業局からの施策紹介

- ・東北経済産業局商業・流通サービス産業課の川邊課長補佐が情報提供した。

(2) 中小機構からのまちづくり支援紹介

- ・中小機構基盤整備機構まちづくり推進室の安達専門職員が情報提供した。

閉 会